

府中市健康地域づくり審議会
第7回熟年元気づくり分科会 報告書

- 1 日 時：平成27年1月26日（月）15時00分から16時25分
- 2 場 所：市役所2階第一応接室
- 3 出席者：中野悦成（分科会会長） 原田弘子（分科会副会長）
重森由枝（分科会委員） 藤本命壮（分科会委員）
宮口英昭（分科会委員） 佐藤眞二（分科会委員）
- 4 欠席者：寺岡 暉（職権委員） 前原裕吉（分科会委員）

5 概 要

(1) 開 会

(2) 分科会長あいさつ

外出もままならない高齢者を訪問して、ごみ出しをしたり、安否確認できなければ民生委員へ連絡したりしているが、非常に喜んでもらっており、それと同時に活動している者の喜びにもなっている。地域包括ケア体制というのは非常に難しい言葉ではあるが、こうした身近で単純な事でも、広がっていけばまちが明るくなるのではないか。

これまで積極的な意見をいただき、元気高齢者を増やす施策が具体的に動き出した。さらに意見をいただきながら発展してまいりたい。

(3) 議事

① 府中市地域福祉計画（案）について

●関連資料の説明

事務局から府中市地域福祉計画（案）について、計画案冊子及び資料により提案・概要説明を行った。

●質疑・意見交換

【主な質疑・意見】

- 地域福祉を具体的に進めていくには、リーダーを育てることと行政の助成が必要ではないか。
- 災害時支援は「老老支援」だ。若い人がいないので、高齢者が高齢者を救出する形になっているが、高齢者がやらなければならないことである。
- リーダーをグループ的なものにしてしまうと、何でも助けてくれる誰かというのを想像しがちだが、全体を担うのではなく、役割をパーツで区切り、パーツごとに担うことは可能ではないか。

- 支える人への転換のアイデアとしては、一般的に地域通貨が使われ、ボランティア等の参加にポイントをつけて、地域で買い物したり寄附できたりするものが多い。
- 支える人として、どのような作業をしてほしいのかということをはっきり明確にしなければ、何をやる必要があるのか分からない。
- 非公式なコミュニティの核となるような活動、お茶会運動会など箇条書きにしてみるとよい。
- 既に公民館などでコミュニティ活動をしているかもしれない。新規にというよりは、その活動をもっと増幅させていくという考えの方がいい。
- 孤立させないということで、日常的な声かけという素朴な事が大切と思う。
- 人に無関心でいることが多くなった時代だが、隣近所をどうだろうかと思う皆の気持ちが一番の福祉であり、必要だと思う。
- 民生委員などの一生懸命活動しているけれども手に漏れるところもある。そういうところを補うのが地域包括ケアシステムだと思う。
- 高齢者が働ける場所をたくさん増やしていく施策が必要。週3日、2時間ずつといった労働形態を高齢者は望んでいるが、ハローワークでは見つかりにくいし、雇用になかなかつながらない。
- 骨折して仕事を辞めた者が、失業保険があっても治癒後も働けなかったら、気力がなくなって働けなくなった。だから、とにかく用事をつくって外へ引っ張り出さなければならない。
- 定年後に地域へ帰ってきても、地域での活動に入りきれない人や、地域へ入っても活動できない人もいる。地域へ溶け込むための方法をなにか講じなければならない。
- いきいきサロンの名前を変更すべき。高齢者のイメージが強すぎる。
- いきいきサロンなどへ出てこない人は、自己責任ということで気にしなくてもいいのではないか。それよりは、出てきたくてもできない人をどうするのか。
- 民生委員にしても社協にしても活動している。していない訳ではない。
- 課題のある人を地域のコミュニティの中にどう取り込むのか、具体が難しいが、これからそういう人が増えるであろうということを考えてはどうか。
- システムや仕組みづくりではなく、問題の属性を考えるべき。
- 一度に何かが変わるわけではない。思いついたことをやってみるのが大

切で、地道にやるしかないのではないかと。

② 平成26年度の進捗状況及び事業の総括等について

- ・平成26年度の進捗状況及び事業の総括

【報告】「生きがい創業ビジネス補助金」について

- ・平成27年度の取り組み

●関連資料の説明

資料により、生きがい創業ビジネス補助金交付事業の実施を中心とした平成26年度の分科会活動について事務局から報告した。また、今後、政策指標「元気高齢者の増加と要介護期間の短縮」について、元気高齢者の割合（数値）により施策の効果及び現状把握を行う等して進捗管理を行うことを事務局から提案した。

●質疑・意見交換

割愛

(4) 閉 会

事務局のまとめとして、府中市地域福祉計画については分科会での意見を踏まえパブリックコメントに向けての成案をまとめていくこと、第8回熟年元気づくり分科会を3月13日に開催し、平成27年度の分科会の取り組み及びパブリックコメントを経た計画の成案を提示すること、3月の府中市健康地域づくり審議会において、本日の分科会の内容を基本に活動報告等をするものの3点を述べた。

原田副会長から、府中市の見守り体制や高齢者の自助努力や社協の活躍は、他のまちに比べても遜色のないもので、府中市の福祉体制はかなり充実しているのではないかと、何かが目玉というよりも不足する部分を明確にして補うための施策を具体化していくべきである、また市民に対して政策を示す際にはきちんと論理的に熟考していかなければならないと挨拶があり、閉会とした。

以上